

関東ブロック・ユネスコ活動研究会 10月13・14日 つくばカピオ、つくば国際会議場

秋晴れの研究学園都市「つくば」で関東ブロック・ユネスコ活動研究会が開催されました。

地元の歌手、佐川はじめ氏による「千羽鶴の祈り」そして「ユネスコの歌」、世界の平和を求めた研究会が「つくばカピオ・ホール」でスタートした。筑波大学大学院日高健一郎氏の基調講演「世界遺産40年の歩みと展望」で世界遺産の現状と課題を学び、パネルディスカッションでは



基調講演の様子

「世界遺産・無形文化遺産は地域の宝物」として「日立風流物」や「結城紬」、「水戸弘道館」などの伝統遺産が紹介された。地域の宝物の保存継承が



ガマの油売り

「平和の文化」
・若者が主体となり続けられている「創作舞台」の報告也

○第二分科会
「世界寺子屋運動」
・15年続いているネパール教育支援活動の報告。
・書損じハガキ回収活動(四街道市ユ協)では、郵便局にも「書損じハガキポスト」を設置して大きな効果を上げているとの報告。



分科会の様子

○第三分科会
「世界遺産・地域遺産活動」
・富岡製糸場の世界遺産登録のゴールが見えてきたとの報告。
・佐野市の「天明鋳物」は地域の宝物探しと保存の必要を提言。
○第四分科会
「青年部活動」
・大学とユネスコスクールとして民間ユネスコ協会との連携を強化の必

要性を提言。
エクスカッションは「つくば宇宙センター」の見学です。



筑波宇宙センター内部

宇宙開発の最先端技術とその成果の説明を受け、3km離れた場所からのロケット発射のすさまじい音にはビックリ、堪能しました。



ロケット発射音の体験

これらの最先端分野の研究開発が、これからの世界平和の安定と持続に貢献していくことを念じつつ、「つくば」を後にしました。

第6回文化遺産めぐり(白岡市出前講座) 白岡市の文化財 2012年10月21日(日)

第6回文化遺産めぐり は初めての座学でした。白岡市の出前講座で市教育委員会の奥野麦生さんに「文化財を護る」ということ、文化財の保護における行政の役割と地方ユネスコの役割をテーマにお話をいただきました。参加者は13名



講師の奥野さん

概要
・白岡市にある県指定文化財2件、市指定文化財50件の概要説明。
・市指定「鬼窪八幡宮 鰐口」の銘文の謎。
二、地域の文化財をどのようにして護るか

・指定文化財と非指定文化は文化財を護る手段に過ぎず、非指定文化財が護られることにより指定文化財が護られることに繋がる。
・野牛地区の領主であった新井白石関連の文化財は地域の輝ける文化財として保護すべきものである。
三、地域ユネスコ活動に期待すること
・誰でも参加できる学習会の継続的な活動を期待する。
・Think globally, act locally の精神を基にした活動でした。その後学校での地域の歴史教育や「文化財」と「文化遺産」の言葉の使い分けの根拠等の質問があり、終了しました。
当協会の今後の活動の方向性を検討する上で非常に参考になる奥野さんのご提案であり、お話でありました。

ぎずな



蓮田・白岡地方ユネスコ協会

設立五周年記念講演会

日本人の心の原風景を語る 巨匠・降旗監督の世界

11月25日(日)午後2時から白岡市の「はびすしらおか」において、協会設立五周年記念講演会が映画監督の降旗康男氏をお招きして100人を超える参加者を得て成功裡に実施することができました。

白岡市教育委員会、蓮田市教育委員会および公益社団法人日本ユネスコ協会連盟に後援していただきました。また、会場内には埼玉県内の民間ユネスコ活動を紹介するた



会場風景

信蓮田市長、関口茂蓮田市長、田村会長の紹介があり、続いて日本ユネスコ協会連盟松田会長からのメッセージが紹介されました。

次に主催者を代表して田村会長から過密スケジュールのなかこの講演会に快諾して戴いた降旗監督に対して謝意を表明



講演会は先ず、司会者からご参加戴いた中野和



ファン持参のポスターを前にして

し、当協会が2008年4月以降取り組んできた各種事業の実施状況を紹介します。最後に活動に参加する新規会員の呼びかけを行いました。

こと、映画界に入った動物、監督の役割、映画作りが心にかけていること、映画作りの役割、思い出の作品、今後の抱負などを質問したのに対し、一つ一つ丁寧に、時にはユーモアを交えながらエピソードや心情を吐露していただきました。思い出の作品としては、数多くの作品の中から特攻隊をテーマとした「ホタル」と来年公開される「少年H」(戦争をテーマ)の2作品を紹介され、多くの犠牲者をもたらした戦争を風化させてはいけないこと訴えられたことが

参加者の心に強く残ったと思います。
なお、講演会の模様は11月27日付読売新聞朝刊で「降旗監督が講演「少年H」の思い出語る」と題して紹介されました。

設立五周年を迎えて

会長 田村勝彦



会員・ご支援の皆様、日頃は当協会の活動にご協力賜り厚く御礼申し上げます。お陰様で当協会は、五年目を迎えました。設立以来、色々な事に挑戦し、遭遇し、纏々議論して時には理事各位のあふれるような努力と熱意で活動を展開してまいりました。崇高な憲章理念は時として日常生活と相当な距離感を感じさせる事はありました。が当該地域・会員規模・財政基盤などの諸事情を勘案して適合する活動を模索・検討して来ました。結果、私達の活動は「絆づくり」を目指し、平和文化の啓蒙から入り、先ずは、世界を知り、わが町を知る「学びの場の提供」

と位置づけ、国際文化スタディ、地域文化スタディを取り上げました。会員相互理解の為に「文化遺産めぐり」「寺子屋講座」もはじめました。徐々ではあります。が各々定着しております。他にも多岐に亘る活動で楽しく、お互いを知り、絆を高め、地域文化の向上を目指す事で一致協力し努力しております。5周年を迎えた今、斯様な活動を支えて来て下さいました皆様に改めて、心からの感謝を申し上げます。有難うございました。初期活動の体験を通して、更に事業のありかたなどを精査し、より適合する活動と安定した持続可能な協会づくりを構築していかうと思っております。どうぞ、ご理解賜り、引き続きのご指導・ご協力を切にお願い申し上げます。

第5回文化遺産めぐり 富岡製糸場見学

2012年6月17日(日)



第5回文化遺産めぐりは世界遺産登録を目指している群馬県富岡市の製糸場見学でした。

参加者は13名、9時30分に大宮駅集合、JRで高崎駅、その後上信電鉄で上州富岡に昼過ぎに到着。

まずは、腹ごしらえ。上州名物「おっきりこみ」を、汗をかきかき頂きました。



おっきりこみ

製糸場は駅から徒歩15分の所でした。案内は富岡製糸場解説委員会の方で、富岡製糸場について学ぶことが出来まし



案内の関さん

Q・富岡製糸場を建てたのはなぜか
富岡製糸場は明治5年(1872年)明治政府が日本の近代化の為に最初に設置した模範器械製糸工場です。

明治維新後、政府は日本を外国と対等な立場にするため、産業や科学技術の近代化を進めた。そのための資金集めの方法として、生糸の輸出が一番効果的だと考え、政府は生糸の品質改善・生産性向上と技術指導者を育成

一、富岡付近は養蚕が盛んで、繭が確保できる。
二、工場建設に必要な広い土地が用意できる。
三、製糸に必要な水が確保できる。
四、燃料の石炭(亜炭)が近くの高崎・吉井で採れる。
五、外国人指導の工場建設に地元の人たちの同意



富岡製糸場正面(東繭倉庫)

成するため、様式の操糸器械を備えた模範工場をつくることにした。

他に、ポール・ブリュナの故郷(フランス)の風景に富岡が似ていたからとも言われている。

Q・なぜ富岡か

明治3年横浜のフランス商館勤務のポール・ブリュナらが武蔵(むさし)・上野(こうずけ)・信濃(しなの)を調査し、上野(今の群馬県)の富岡に場所を決めた。



製糸場からの風景

操糸場、東・西繭倉庫、外国人宿舎等の主要建物(国指定重要文化財)は、ほぼ創業当時の状態で保存されており、建設技術を含め先人の技術の高さなどを知ることが出来ました。



操糸場内部

今後の活動予定

- 1月27日(日) 第7回文化遺産めぐり「渋沢記念館見学」
- 2月17日(日) 第9回地域文化遺産スタディ「縄文期の蓮田・白岡」

第4回寺子屋講座 中国の若者に魅せられて

2012年7月21日(日)



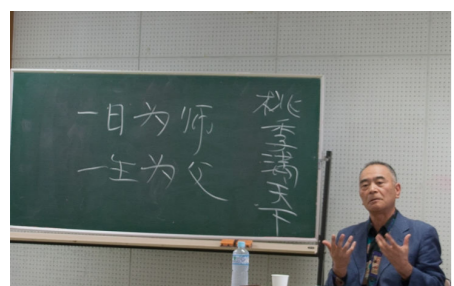
講師の早川さん

第4回寺子屋講座は、「中国の若者に魅せられて」と題し開催されました。講師は当協会会員・早川正恭さんです。早川さんは北京のイトーヨーカドー1号店立ち上げで3年間駐在した時の若者との交流が縁で、現在日本語教師として中国海洋大学青島学院に赴任中



講座の様子

「一日為師・一生為父」
『一日師と仰ぐ人は一生の父と同じである』
「桃李満天下」
『桃や李(スモモ)のように貴重な果実(教える)が至る所にいる』
との説明とともに、1000人を超える教える子が中国国内はむしろ、日



一日為師・一生為父、桃李満天下



開倫工協・大泉工協の方と一緒に(後列左から長嶋理事、田村会長)

本・米国で活躍していることを、わがことのように嬉しそうに話す姿は、ビジネスマンでなく、まさしく教師そのものでした。講義終了後、参加者で早川さんを囲んでの昼食会を開き、親しくお話をすることが出来ました。



早川さんを囲んでの昼食

全国大会に参加

9月15日、16日に香川県高松市で「第68回 日本ユネスコ運動 全国大会 in 高松」が開催されました。当協会からは田村会長、長嶋理事の二名が参加しました。
「参加を通してユネスコ運動とはどのようなものか、どのような活動をしているのか、現在の実態、そして今後の運動の目指すもの等生の声でその一端を学べる事が出来たのかと思っています。大会宣言は具体性に乏しかったが、ユネスコ理念を再確認することが大切との思いが感じられた。
また、交流会で接した方々との友好・意見交換が出来たのも良かったと思います。振り返って、私達が地域で出来るユネスコ活動の意義を見つめ、一歩一歩元気で明るく楽しみながらの活動を継続し、次世代に継承して行けたらと思います。(長嶋記)」

会員紹介



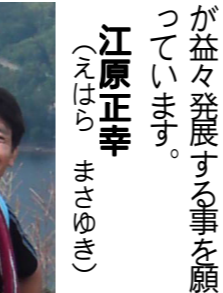
牛尾恵子 (うしお けいこ)



小川健一 (おがわ けんいち)

①出身地②今までの歩み③ユネスコ活動について敬称は省略しています

①韓国ソウルで生まれ、東京大田区育ち。
②高1から大学までは韓国。韓国語通訳歴約30年。日韓交流、韓国オピニオンリーダーなどの仕事に従事中。現NPO法人日中韓から世界へ代表理事。仕事だけでなく母の代から息子まで日韓の間で家族を作ってきました。微力ながら日韓の架け橋の役割をしています。③ユネスコ関係の教員交流の仕事にも携わっています。日韓ひいては世界の子どもの達の幸せのための活動が益々発展する事を願っています。



江原正幸 (えはら まさゆき)



斎藤憲義 (さいとう のりよし)

①久喜市②旅行観光専門学校卒③会社員④5周年記念講演会 戦争を知らない私たちにどうして降旗監督の体験談はとても興味深く、拝聴いたしました。平和活動については、とても大切な事であり、戦争を知らない私たちが世代が、先輩方のパイプ役となり子供たちに語りついでいかなければならないと、痛感しました。活動に参加することがなかなかできませんが、今後共々よくお願いいたします。

①生まれは東京都港区青山ですが、5歳の時に神奈川県大和市に転居、大学卒業まで住んでおりました。現在は東京都世田谷区在住です。②22歳で社会人となってからは大分県・東京都・福岡県・長野県・北海道と全国を股にかけて転動いたしました。現在は墨田区にある建材工事会社に勤務しております。③お恥ずかしい事に本会にはいつも欠席という幽霊会員です。ただ、いつも郵送頂いている会報は大変興味深く拝読しております。今後は機会があれば本会にも出席したいと考えております。

の内拠地東京都稲城市に在住②自動車部品開発の仕事をしておりませんが、会社で絞られ家では縛られ趣味のゴルフもいつの日か打ちっ放しの多い日々です。③ユネスコの活動、定義を正しく知らない世代が多い事が実況です。もっと子供のうちからその意味を分かってもらえたらと思います。



内山賢一 (うちやまけんいち)

①千葉市緑区に住む箱入り息子でした(但し大学、通勤には片道一時間弱)その辛抱強さも結婚と共にいずこへ。現在は読売巨人軍